

精神疾患を抱える当事者の看護系大学における 授業参加に関する国内外の研究動向と課題

Trends in Research on Involving People with Mental Disorders in Education at Nursing Universities

後藤 恭平 小山 旺耶 久保 正子
Kyohei Goto Kimiya Koyama Masako Kubo

キーワード：当事者参加型授業 学生 精神看護 看護教育 文献検討

key words : expert by experience, nursing students, mental health nursing, nursing education, literature review

要 旨

目的：文献検討により精神疾患を抱える当事者の看護系大学における授業参加の国内外の研究動向を概観し、今後の研究課題を分析することである。

方法：医中誌、Pubmed、CINAHLを用い、キーワードを国内文献は「当事者」「看護」「教育」「学生」、海外文献は「lived experience OR experts by experience OR service user OR consumer」And「education」And「mental* OR psychiat*」And「nurs*」And「student」とし検索し、研究目的に合致した国内文献13件、海外文献22件を研究対象とした。抽出された文献を年次、研究デザイン、研究対象、当事者の授業参加度、内容別に分類した。

結果：国内では9件(69.2%)がテキスト分析であり、12件(92.3%)が学生を対象であった。一方、海外ではフォーカスグループインタビューが10件(45.5%)を占め、当事者対象の研究が7件(31.8%)みられた。

考察：今後は量的研究や当事者対象の研究が実施されていくべきである。

I. 緒言

我が国の精神保健医療は2004年に厚生労働省が策定した精神保健施策の改革ビジョン以来、「入院医療中心から地域生活中心へ」の理念のもとに推し進められてきた。2021年の「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会」報告書¹⁾では、支える側と支えられる側という従来の関係を超越して、一人一人が生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らすことができる包摂的な「地域共生社会」を目指すことが示されている。

地域社会において精神疾患を抱える人々（以下、当事者）の支援を考えるために、近年の精神保健医療福祉分野での中核的な考えであるリカバリー支援の理解が必要不可欠である。ここで意味するリカバリーは、医療的な症状の減少や機能の向上を図る臨床的な意味でのリカバリーではなく、精神疾患を抱える当事者が疾患の影響を乗り越え、自身で決めた意味のある人生を取り戻していく過程を意味するパーソナルリカバリー²⁾を意味するものである。先行研究によるとパーソナルリカバリーは、スティグマが阻害要因の1つであると言われている³⁾。精神疾患を抱える人々に対

するスティグマは知識の問題、態度の問題、行動の問題の3つの要素を含む包括的なものであるとされている⁴⁾。

看護系大学では学生の当事者へのスティグマを改善し、パーソナルリカバリーの理解を深める取り組みがなされている。その中のひとつに当事者が、自身の病気や生活などの実体験を学生に語る当事者参加型の授業がある。海外の大学では、学生への語りだけでなく授業の企画や運営を含む多様な当事者参加型授業が行われている。これは、サービス提供者と利用者が対等な立場で共にサービスの計画、運営、評価に取り組むという共同創造 (co-production) の考え方が基本となっている。この共同創造の考えは、近年の保健医療福祉分野において重要視されており、当事者自身がケアやサービスの計画、提供、管理に関与すべきという国の方針⁵⁻⁸⁾が複数の国で打ち出されている。

また、海外では当事者を経験の専門家 (expert by experience) として、疾患の発症、サービス利用、パーソナルリカバリーに向け歩む経験により培われた知識を活用する考えも近年広がってきている⁹⁾。

近年の海外の流れと比べて、我が国では共同創造の考え方が保健医療福祉や医療教育分野において一般的ではなく、多様な当事者参加型授業に関する研究も十分になされていない。

そこで、本研究は精神疾患を抱える当事者の看護系大学における授業参加に関する国内外の研究動向を文献検討により概観し、今後の研究課題について分析することを目的とした。

Ⅱ. 方法

1. 対象文献の選定基準

先行研究を参考に以下の5つの基準すべてを満たす文献を対象とし、遡及年数は定めなかった。

- 1) 看護系大学の学生への当事者参加型授業が実施されているもの (海外文献との比較のため)
- 2) 臨地実習ではない授業であるもの
- 3) 当事者の参加が直接的なもの (DVD等による映像学習のみのものを除く)
- 4) 日本語または英語で書かれている文献であること
- 5) 学術雑誌に掲載されているもの

2. 対象文献の検索方法

精神疾患を抱える当事者の看護系大学における授業参加に関する国内外の文献を収集するため、海外文献ではPubMedおよびCINAHLを用い、国内文献では医中誌Webを用いた。検索日は2022年8月31日であった。英語文献データベースの検索語は先行研究を参考に、「“lived experience” OR “experts by experience” OR “service user” OR consumer」AND「education」AND「mental* OR psychiat*」AND「nurs*」AND「student」とし、English [language]で絞り込みを行った。(*は前方一致検索を示す)。

次に日本語文献データベースの検索語は「当事者 AND 看護 AND 教育 AND 学生」とし、原著論文のみを抽出した。それぞれのデータベースで検索した文献の表題、抄録を読み、重複するものや選定基準を満たしていないと判断した文献は除外とした。その後、除外しなかった文献の本文を読み、選定基準を満たすかどうかを判断した。

3. 分析方法

対象文献を国内文献、海外文献ごとに年次、研究デザイン、研究対象、当事者の授業参加度、研究内容の項目によって分類した。

当事者の授業参加度の項目は文献を精読し、当事者の語り、当事者による授業や指導、当事者の授業設計、開発、提供への参加の3つに分類した。1つ目の当事者の語りは自身の経験を学生に語るような参加度を示し、2つ目の当事者の授業や指導は当事者が教員の代わりに講義や指導をする参加度を示すこととした。3つ目の当事者の授業の設計、開発、提供への参加は教員とともに授業の設計、開発、提供に携わる参加度を示すこととした。

また、研究内容の項目は、研究内容の国内外での文献数や内容の相違性を検討するため、研究結果の記述を精読し当事者の授業参加が学生に与える影響、当事者の授業参加が当事者自身に与える影響、当事者の授業参加の課題の3つに分類した。そのうえで、当事者参加型授業が学生に与える影響に該当する研究結果を類似性ごとに分類し、カテゴリー化を行った。なお、カテゴリーは【 】で記載することとした。

4. 倫理的配慮

対象文献は、著書や出典を明示し、分析内容は著作権の範囲内で適切に抽出、分析を行った。

Ⅲ. 結果

論文検索過程のフローチャートを図1に示す。英語文献、日本語文献合わせて594件のうち重複を除く429件についてスクリーニングを行った結果、海外文献では22件、国内文献では13件が最終的に抽出された。抽出された国内外における文献数の年次推移を図2に示す。また、対象文献の概要、国内文献の一覧、海外文献の一覧をそれぞれ表1、表2、表3に示す。

1. 文献の概要

1) 文献数の年次推移

国内文献は初出が2002年であり、それ以降、毎年3件以内の文献数で推移している。一方、海外文献は初出が2003年であり、国内文献同様に毎年3件以内の文献数でほとんど推移しているが、2019年のみ7件抽出された(図2)。

2) 研究デザイン

国内文献のうち11件(84.6%)が質的研究であ

り、そのうち9件(69.2%)がテキスト分析による研究であった。海外文献では17件(77.3%)が質的研究であり、そのうち10件(45.5%)がフォーカスグループインタビューによる研究であった(表1)。

3) 研究対象

研究対象は、国内文献が当事者を対象とした研究が1件であったのに対して、海外文献では当事者または当事者と学生の両方を研究対象としたものが7件見られた(表1)。

4) 当事者の授業参加度

国内文献では1件¹⁰⁾のみが当事者による授業や指導であり、それ以外の12件はすべて当事者が体験を語る語り手としての参加であった。一方、海外文献では当事者の語り手としての参加が3件、当事者による授業や指導の参加が7件、当事者の授業の設計、開発、提供への参加が12件みられた。しかし、当事者の授業の設計、開発、提供への参加の12件のうち11件が2018年に6か国共同でメンタルヘルス看護教育における共同創造の実践ガイドラインの開発や評価を目的に実施されたCo-production of Mental Health Nursing Education (COMMUNE)プロジェクトに関連し

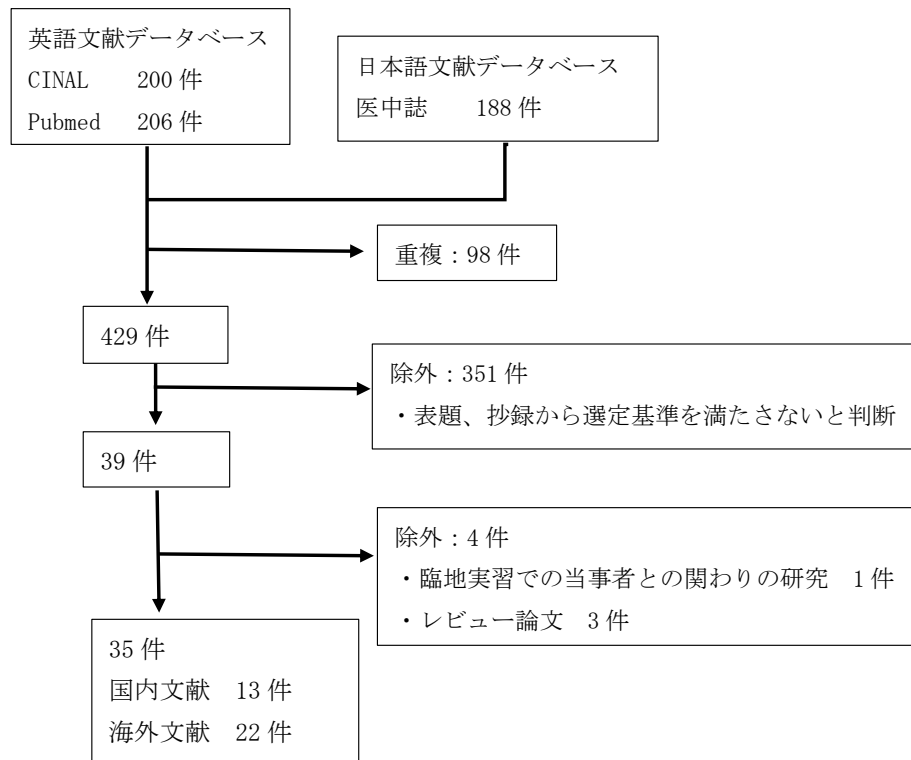


図1 論文検索過程のフローチャート

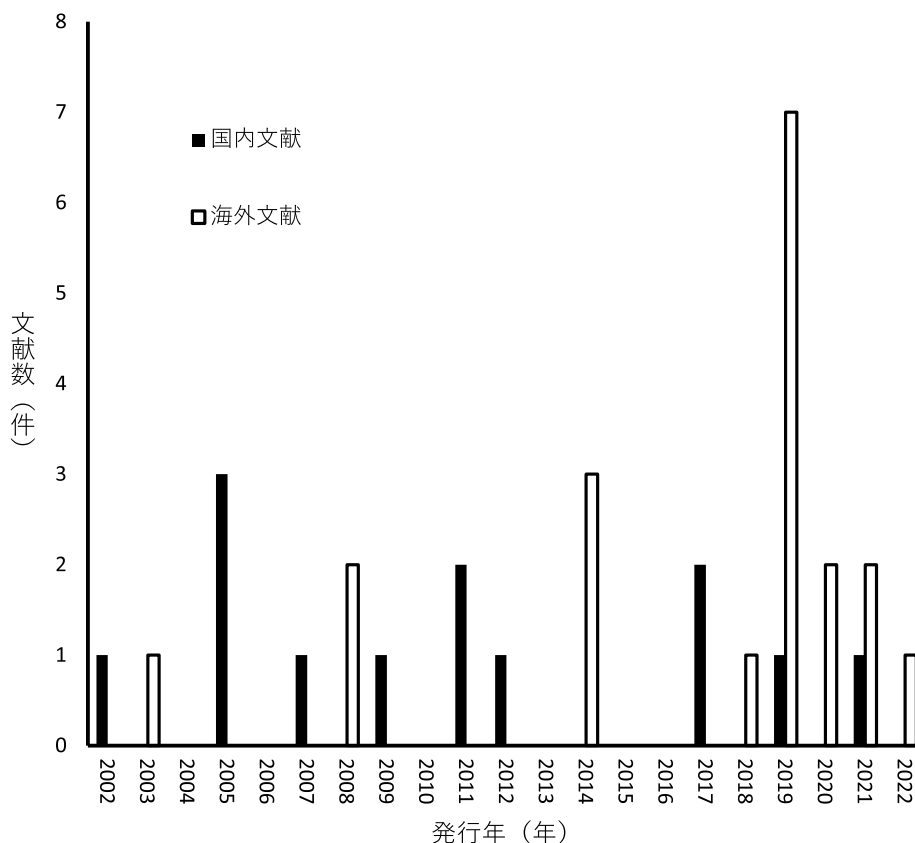


図2 国内外における当事者参加型授業に関する文献数の年次推移

表1 対象文献の概要

		国内文献		海外文献	
		件数	%	件数	%
研究デザイン	量的研究	2	(15.4%)	5	(22.7%)
	質的研究	11	(84.6%)	17	(77.3%)
	テキスト分析	9	(69.2%)	1	(4.5%)
	インタビュー	2	(15.4%)	6	(27.3%)
	FGI*			10	(45.5%)
研究対象	学生	12	(92.3%)	15	(68.2%)
	当事者	1	(7.7%)	5	(22.7%)
	学生と当事者			2	(9.1%)

* FGI : フォーカスグループインタビュー

た研究であった (表2、表3)。

2. 文献の研究内容

1) 当事者の授業参加が学生に与える影響

当事者の授業参加が学生に対して与える影響に関してカテゴリー化の結果、【理論と実践とをつなぐ学習効果】【リカバリーの志向性の向上】【偏

見やスティグマの減少】【学生の看護に対する態度や価値観への影響】の4つに分類された。

(1) 理論と実践とをつなぐ学習効果

【理論と実践とをつなぐ学習効果】のカテゴリーに分類された研究は国内文献では9件^{10-12, 14-16, 18, 21, 22)}、海外文献では16件^{23, 25-27, 29, 31-33, 35, 36, 39-44)}みられた。国内外とも、入院生活や看護師の対

表2 国内の対象文献一覧

著者 (出版年)	研究方法	対象	当事者の授業参加度	研究目的 (抜粋、一部要約)
守村ら ¹⁰⁾ (2021)	テキスト分析	学生	当事者による 授業や指導	当事者参加型シミュレーション教育プログラムによる学生の学びの探求
葛谷ら ¹¹⁾ (2019)	テキスト分析	学生	当事者の語り	精神障害をもちながらピアサポート活動を行う当事者の授業による学生の学びを明らかにすること
田中ら ¹²⁾ (2017)	インタビュー	学生	当事者の語り	当事者参加型授業での学生の学びの臨地実習における活用状況について明らかにすること
矢野ら ¹³⁾ (2017)	インタビュー	当事者	当事者の語り	当事者参加型授業が、当事者自身にはどのような体験であり、どのような意義があるのか明らかにすること
渥美 ¹⁴⁾ (2012)	テキスト分析	学生	当事者の語り	学生の授業記録を分析し、当事者参加授業による教育成果について、学生の学びと自己の課題から明らかにすること
伊礼ら ¹⁵⁾ (2011)	テキスト分析	学生	当事者の語り	当事者の語りやディスカッションを通しての学生の評価を分析すること
渥美 ¹⁶⁾ (2011)	テキスト分析	学生	当事者の語り	看護基礎教育における精神障害当事者参加授業がもたらす教育成果の検討
船越ら ¹⁷⁾ (2009)	自記式質問紙	学生	当事者の語り	精神障がい者に対する対象理解に効果的な「当事者参加型授業」を含む包括的教育プログラムの効果を検証すること
平田ら ¹⁸⁾ (2007)	自記式質問紙	学生	当事者の語り	アルコール依存症当事者の語りの講義と従来の知識の講義の結果を比較すること
大西ら ¹⁹⁾ (2005)	テキスト分析	学生	当事者の語り	精神障害当事者による体験談が学生の看護への動機づけに対する影響を検討すること
木立ら ²⁰⁾ (2005)	テキスト分析	学生	当事者の語り	精神障害当事者による体験談後の学生の精神障害者に対するイメージの変化を明らかにすること
石崎ら ²¹⁾ (2005)	テキスト分析	学生	当事者の語り	精神障害当事者による体験談からの学生の印象に残った事柄を明らかにすること
田中ら ²²⁾ (2002)	テキスト分析	学生	当事者の語り	精神障害の当事者による講義からの学生の学びを明らかにすること

応、地域生活や地域支援の実際、病気の発症や実際の精神疾患の症状等について具体的な話を当事者から聞くことにより学びを深めていることが述べられていた。また当事者が学生に対してコミュニケーションについて指導することで、より実践的なコミュニケーション技術を学習できる^{10, 26, 28)}と述べる研究も見られた。

(2) リカバリーの志向性の向上

当事者の授業参加が学生のリカバリーの志向性の向上に関連していることを調査した研究は国内文献では4件^{10, 11, 15, 22)}、海外文献では4

件^{26, 36, 40, 41)}であった。国内文献、海外文献ともに質的な研究であり、当事者が自身の経験や生き方を語ることにより学生がリカバリーを理解するのに役に立つことを述べられていた。

(3) 偏見やスティグマの減少

当事者の授業参加が学生の偏見やスティグマの減少について調査された研究は国内文献では8件^{10-12, 17, 18, 20-22)}、海外文献では7件^{26, 29, 31, 34, 37, 38, 44)}であった。その多くが質的な研究であったが、国内文献で1件¹⁷⁾、海外文献では3件^{29, 37, 38)}が偏見やスティグマの尺度を用いた量的な研究で

表3 海外の対象文献一覧

著者 (出版年)	研究方法	対象	当事者の授業参加度	研究目的 (抜粋、一部要約)
Happel et al. ²³⁾ (2022)	インタビュー	当事者	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	精神看護学教育に貢献している当事者独自の知識や 専門性について明らかにすること
Happel et al. ²⁴⁾ (2021)	インタビュー	当事者	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	当事者主導の精神看護教育の設計・開発・提供に携 わった当事者の経験を調査すること
Horgan et al. ²⁵⁾ (2021)	FGI †	当事者	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	精神看護教育の改善点と当事者目線での看護教育へ の当事者の関与を強化する方法を探ること
Eleanor Jack ²⁶⁾ (2020)	FGI †	学生	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加	当事者の教育への関与が個人的、専門的に看護学生 に与える影響を明らかにすること
Happel et al. ²⁷⁾ (2020)	FGI †	学生	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	当事者主導の精神看護教育が学生の精神看護教育に 対する姿勢や経験に与えた影響を明らかにすること
Happel et al. ²⁸⁾ (2019)	FGI †	学生	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	当事者主導の精神看護教育が学生の精神看護に関す る認識に与えた影響を明らかにすること
Happel et al. ²⁹⁾ (2019)	自記式質問紙	学生	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	当事者主導の精神看護教育が学生への当事者や当事 者の教育参加への態度に与える影響の調査
Happel et al. ³⁰⁾ (2019)	FGI †	学生	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	当事者主導の精神看護教育について受講した学生の 経験からの改善点を明らかにすること
Happel et al. ³¹⁾ (2019)	FGI †	学生	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	当事者主導の精神看護教育に対する看護学生の学び や経験について明らかにすること
Bocoking et al. ³²⁾ (2019)	FGI †	当事者	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	当事者主導の精神看護教育に対する当事者自身の貢 献についてへの受け止め方を明らかにすること
Happel et al. ³³⁾ (2019)	FGI †	学生	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	当事者主導の精神看護教育における看護学生の経験 を調査すること
Martínez C ³⁴⁾ (2019)	自記式質問紙	学生	当事者の語り	教室での当事者との直接的な交流が看護学生の感情 や否定的な態度に与える影響を明らかにすること
Horgan et al. ³⁵⁾ (2018)	FGI †	当事者	当事者の授業の設計、 開発、提供への参加*	当事者主導の精神看護教育に携わった当事者による 精神看護教育への貢献の可能性の検討
Stacey ³⁶⁾ (2018)	テキスト分析	学生	当事者による 授業や指導	当事者が評価者の役割として行うフィードバックが 学生の学習に与える影響を明らかにすること
Byrne et al. ³⁷⁾ (2014)	自記式質問紙	学生	当事者による 授業や指導	看護師主導と当事者主導の両方授業を受講した学生 の当事者への意識の変化についてのコホート研究
Happel et al. ³⁸⁾ (2014)	自記式質問紙	学生	当事者による 授業や指導	看護師主導と当事者主導の両方授業を受講した学生 の態度、精神看護へのキャリア志向への影響につい てのコホート研究
Maplethorpe et al. ³⁹⁾ (2014)	FGI †	学生と 当事者	当事者による 授業や指導	当事者による clinical supervision の講義・指導が 学生への新しい視点の提供につながるかどうかを明 らかにすること
Byrne et al. ⁴⁰⁾ (2013)	インタビュー	学生	当事者による 授業や指導	当事者からの授業が学生の看護実践に与える影響を 明らかにすること
Byrne et al. ⁴¹⁾ (2013)	インタビュー	学生	当事者による 授業や指導	当事者からの授業を受けた学生の経験や認識を明ら かにすること
RUSH ⁴²⁾ (2008)	インタビュー	学生	当事者の語り	当事者の授業での語り看護学生の実践に与える影 響とメカニズムを調査すること
Simpson et al. ⁴³⁾ (2008)	インタビュー	学生と 当事者	当事者の語り	当事者と看護学生によるオンラインディスカッション による学生の学習効果の検討
Happel et al. ⁴⁴⁾ (2003)	自記式質問紙	学生	当事者による 授業や指導	当事者による授業が看護大学院生の当事者参加への 意識に与えた影響を明らかにすること

* 6 개국共同で実施された Co-productuion of Mental Health Nursing Education (COMMUNE) プロジェクトによるもの

† FGI Focus Group Interview (フォーカスグループインタビュー)

あり、そのうち海外文献の2件^{37, 38)}が従来の精神保健の授業と当事者が主導で行う授業との比較を行った研究であった。

(4) 学生の看護に対する態度や価値観への影響

当事者の授業参加の学生の看護に対する態度や価値観への影響について調査された研究は国内文献では1件¹⁹⁾、海外文献では2件^{28, 38)}であった。国内文献では自身の看護職としての態度や動機づけに影響を与えていると述べており、海外文献では、精神科看護を目指す意欲にもつながることも述べられていた。

2) 事者の授業参加が当事者自身に対して与える影響

当事者の精神看護教育への参画が当事者自身に与える影響について調査された研究は国内、海外文献ともに1件ずつみられた。国内文献では学生との交流を通じた自己肯定感の向上¹³⁾や、海外文献では授業の設計、開発、提供までに携わった挑戦的な経験がエンパワメントにつながった²⁴⁾と述べられていた。

3) 当事者の授業参加の課題

当事者の授業参加の課題について調査された研究が海外文献のみ2件みられた。授業内容や実施時期を含めた授業全体の在り方³⁰⁾や、当事者が安心して教育指導できる環境や教育技術について学ぶ機会の必要性³²⁾について述べられていた。

IV. 考察

1. 国内外の研究動向と今後の課題

本研究では、国内文献が2002年、海外文献が2003年に初出であった。この理由として、国内文献では、看護系大学のみを対象としたため、大学数の少なさから2002年以前の研究がみられなかったと考えられる。実際に2002年時点で看護系大学は96校しかなく、2020年の274校と比較して半分以下であった⁴⁵⁾。一方、海外文献については1990年代に精神保健福祉分野における患者参加が促進され、医療教育分野にまで派生したのが2000年代前半からであったためと考えられる。また、2019年に海外文献が7件と突出して多いのは2018年のCOMMUNEプロジェクトに関連する研究が多数を占めるためと考えられる。

研究デザインに関して、本研究では国内文献の9件(69.2%)がテキスト分析による研究であっ

た。一方、海外文献ではテキスト分析による研究は1件(4.5%)のみであり、その多くがインタビューやフォーカスグループインタビューによるものが16件(72.8%)を占めていた。国内外の文献ともに量的な研究は少なく、そのほとんどが【偏見やスティグマの減少】を調査対象とした研究であった。【リカバリーの志向性の向上】に関しても、医療従事者のリカバリーの知識や姿勢を評価するRecovery Knowledge Inventory^{46, 47)}のような既存の尺度も存在しており、今後は、量的な研究がより実施されていくべきである。

また研究対象に関しては海外文献の7件(31.8%)が当事者を対象に含む研究であった。一方、国内文献は1件(7.7%)のみが当事者を対象とした研究であった。国内での当事者対象の研究の少なさは、少人数の当事者の科目の1回の授業参加が主流であり、研究としてデータを集める困難さが関係していると考えられる。

次に当事者の授業参加度について、国内文献の12件(92.3%)が当事者の語りの参加であった。一方、海外文献では、当事者の授業や指導、当事者の授業の設計、開発、提供への参加が多くみられており、共同創造の考えが受け入れられ、当事者の参加が進みつつあると考えられる。

さらに当事者の授業参加は、教員の講義とは異なる視点を学ぶ【理論と実践とをつなぐ学習効果】となり、当事者の実体験を聞き交流することにより【リカバリーの志向性の向上】や【偏見やスティグマの減少】につながる。その結果、【学生の看護に対する態度や価値観への影響】していくことが示唆されていた。当事者との交流は、臨地実習でもなされるものである。しかし、実習中は入院中の患者との交流が中心となり、地域で生活し自身のリカバリーを歩む姿を想像しづらい。そのため、実習前に当事者参加型授業を経験することが、実習中の受け持ち患者の退院後の地域生活を見据えた支援につながると考えられる。また、鈴木ら⁴⁸⁾は、臨地実習前に精神疾患を抱える人への恐怖感を持つ学生が、実習中に不安を教員へ表出できず我慢し、患者に対して共感的な理解が深まらない可能性を示唆しており、実習前の当事者参加型授業により【偏見やスティグマの減少】することが学生に有益であると考えられる。

加えて、当事者授業参加の当事者自身への影響

も示唆されていた。自己肯定感の向上¹³⁾やエンパワメントな経験²⁴⁾のようなポジティブな結果は、当事者のセルフスティグマの改善にもつながり、当事者自身のパーソナルリカバリーの支援につながるであろう。しかし、現在のところ国内外の文献ともに当事者自身の影響について調査された研究は少ない。今後さらに当事者への影響が研究されることで、多くの当事者が教育分野への興味を抱き、海外のように経験の専門家として働くようになる可能性がある。

2. 本研究の限界

本研究は、国内外の文献ともに医学系のデータベースに限定し、教育、心理系のデータベースを用いていないことで抽出されなかった文献が存在すると考えられる。また海外文献は同一のCOMMUNEプロジェクトの研究が多く、結果に偏りが出ている可能性がある。

引用文献

- 1) 厚生労働省：「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会」報告書 .https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/000755200.pdf. (access, 2022.11.3)
- 2) Leamy M., Bird V., Le Boutillier C. et al: Conceptual framework for personal recovery in mental health: systematic review and narrative synthesis. *The British Journal of Psychiatry*, 199 (6): 445-452, 2011.
- 3) van Weeghel J., van Zelst C., Boertien D., et al: Conceptualizations, assessments, and implications of personal recovery in mental illness: a scoping review of systematic reviews and meta-analyses. *Psychiatric Rehabilitation Journal*, 42 (2): 169-181, 2019.
- 4) Thornicroft G., Rose D., Kassam A., et al: Stigma: ignorance, prejudice or discrimination? *Br J Psychiatry*. 190: 192-193, 2007.
- 5) Australian Commission on Safety and Quality in Health Care: National Safety and Quality Health Service Standards, 2nd ed.https://www.safetyandquality.gov.au/sites/default/files/migrated/National-Safety-and-Quality-Health-Service-Standards-second-edition.pdf (access, 2022.11.3)
- 6) Health Services Executive: A National Framework for Recovery in Mental Health 2018-2020:Plain English Version. https://www.lenus.ie/bitstream/handle/10147/622663/National-Framework-Plain-English.pdf?sequence=1&isAllowed=y (access, 2022.11.3)
- 7) Mental Health Commission: Rising to the challenge: The mental health and addiction service development plan 2012-2017: https://www.health.govt.nz/system/files/documents/publications/rising-to-the-challenge-mental-health-addiction-service-development-plan-v2.pdf (access, 2022.11.3)
- 8) Mental Health Commission of Canada: Advancing the Mental Health Strategy for Canada: A Framework for Action (2017-2022). https://www.mentalhealthcommission.ca/wp-content/uploads/drupal/2016-08/advancing_the_mental_health_strategy_for_canada_a_framework_for_action.pdf (access, 2022.11.3)
- 9) Mclaughlin, H. : What's in a name: 'client', 'patient', 'customer', 'consumer', 'expert by experience', 'service user'—what's next?, *British Journal of SocialWork*, 39, 1101-1117, 2009.
- 10) 守村洋, 伊東健太郎: 当事者参加による精神看護学シミュレーション教育のプログラムの試みと学生の学び, *日本精神看護学会誌*, 30 (2), 9-18, 2021.
- 11) 葛谷玲子, 石川 かおり, 高橋 未来: 精神障害をもちながらピアサポート活動を行う当事者による授業の学習の意義, *岐阜県立看護大学紀要*, 19 (1), 131-138, 2019.
- 12) 田中千絵, 矢野 優, 杉浦浩子: 当事者参加型授業の精神看護学実習における学びの活用, *日本看護学会論文集 精神看護*, 47, 151-154, 2017.
- 13) 矢野 優, 田中千絵, 杉浦浩子: 精神障がいピアサポーターが当事者参加型授業に参加する意義, *日本看護学会論文集 精神看護*, 47, 15-18, 2017.
- 14) 渥美一恵: 当事者参加授業による教育成果の検討——精神保健論の授業記録から——, *日本看護学会論文集 看護教育*, 42, 112-115, 2012.
- 15) 伊礼優, 鈴木啓子, 金城祥教: 精神の病を抱える当事者の授業参加による学習効果——学生レポートの内容分析を通して——, *日本看護学会論文集 看護教育*, 41, 119-122, 2011.
- 16) 渥美一恵: 看護基礎教育における精神障害当事者参加授業の教育成果——ポートフォリオ「日々の授業記録」による検討——, *日本看護学会論文集 看護教育*, 41, 71-74, 2011.
- 17) 船越明子, 田中敦子, 服部希恵: 当事者参加型授業を含む複数の教材を用いた教育介入が看護学生の精神障がい者への対象理解に与える影響, *三重県立看護大学紀要*, 13, 29-35, 2009.
- 18) 平田直美, 牛ノ濱幸代, 末吉朋: 当事者の「語り」を導入したアルコール依存症の講義の評価, *アディクション看護*, 4 (1), 21-27, 2007.
- 19) 大西香代子, 木立るり子, 石崎智子: 精神障害当

- 事者の体験談を導入した教育方法（第1報）——動機づけから見た学生への影響——，日本看護学会論文集 看護教育，35, 193-195, 2005.
- 20) 木立るり子，大西香代子，石崎智子：精神障害当事者の体験談を導入した教育方法（第2報）——イメージ変化からみた効果——，日本看護学会論文集 看護教育，35, 196-198, 2005.
- 21) 石崎智子，木立るり子，大西香代子：精神障害当事者の体験談を導入した教育方法（第3報）——印象の分析からみた精神障害者の理解——，日本看護学会論文集 看護教育，35, 199-201, 2005.
- 22) 田中美恵子，菅原とよ子，若狭紅子ら：当事者による精神看護学の講義から学生は何を学んだか——「語る主体」としての当事者との出会い——，東京女子医科大学看護学部紀要，5, 67-72, 2002.
- 23) Happell B., Warner T., Waks S. et al. : Something special, something unique: Perspectives of experts by experience in mental health nursing education on their contribution, *Journal of Psychiatric & Mental Health Nursing*, 29 (2), 346-358, 2022.
- 24) Happell B., Warner T., Waks S. et al. : Becoming an Expert by Experience: Benefits and Challenges of Educating Mental Health Nursing Students, *Issues in Mental Health Nursing*, 42 (12), 1095-1103, 2021.
- 25) Horgan A., Donovan, M.O., Doody R. et al. : Improving Service User Involvement in Mental Health Nursing Education: Suggestions from Those with Lived Experience, *Issues in Mental Health Nursing*, 42 (2), 119-127, 2021.
- 26) Eleanor Jack : Service user involvement in an undergraduate nursing programme, *The Journal of Mental Health Training, Education and Practice*, 15 (3), 125-140, 2020.
- 27) Happell B., Waks S., Horgan A. et al. : “It is much more real when it comes from them”: The role of experts by experience in the integration of mental health nursing theory and practice, *Perspectives in Psychiatric Care*, 56 (4), 811-819, 2020.
- 28) Happell B., Waks S., Bocking J. et al. : “But I’m not going to be a mental health nurse”: nursing students’ perceptions of the influence of experts by experience on their attitudes to mental health nursing, *Journal of Mental Health*, 30 (5), 556-563, 2021.
- 29) Happell B., Platania-Phung C., Scholz B. et al. : Changing attitudes: The impact of Expert by Experience involvement in Mental Health Nursing Education: An international survey study, *International Journal of Mental Health Nursing*, 28, 480-491, 2019.
- 30) Happell B., Waks S., Greaney S. et al. : Experts by Experience Involvement in Mental Health Nursing Education: Nursing Students’ Perspectives on Potential Improvements, *Issues in Mental Health Nursing*, 40 (12), 1026-1033, 2019.
- 31) Happell B., Waks S., Bocking J. et al. : “I felt some prejudice in the back of my head”: Nursing students’ perspectives on learning about mental health from “Experts by Experience”, *Journal of Psychiatric & Mental Health Nursing*, 26 (7-8), 233-243, 2019.
- 32) Bocking J., Happell B., Scholz B. et al. : ‘It is meant to be heart rather than head’; International perspectives of teaching from lived experience in mental health nursing programs, *International Journal of Mental Health Nursing*, 28, 1288-1295, 2019.
- 33) Happell B., Waks S., Bocking J. et al. : ‘There’s more to a person than what’s in front of you’: Nursing students’ experiences of consumer taught mental health education, *International Journal of Mental Health Nursing*, 28 (4), 950-959, 2019.
- 34) Martinez-Martinez C., Sanchez-Martinez V., Sales-Orts R. et al.: Effectiveness of direct contact intervention with people with mental illness to reduce stigma in nursing students, *International Journal of Mental Health Nursing*, 28, 735-743, 2019.
- 35) Horgan A., Manning F., Bocking J. et al. : ‘To be treated as a human’: Using co-production to explore experts by experience involvement in mental health nursing education, *International Journal of Mental Health Nursing*, 27, 1282-1291, 2018.
- 36) Stacey G., Pearson M. : Exploring the influence of feedback given by people with lived experience of mental distress on learning for preregistration mental health students, *Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing*, 25, 319-326, 2018.
- 37) Byrne L., Platania-Phung C., Happell B. et al. : Changing nursing student attitudes to consumer participation in mental health services: a survey study of traditional and lived experience-led education, *Issues in Mental Health Nursing*, 35, 704-712, 2014.
- 38) Happell B., Byrne L., Platania-Phung C. et al. : Lived-experience participation in nurse education: reducing stigma and enhancing popularity, *International Journal of Mental Health Nursing*, 23, 427-434, 2014.
- 39) Maplethorpe F., Dixon J., Rush B. : Participation in clinical supervision (PACS): An evaluation of student nurse clinical supervision facilitated by

- mental health service users, *Nursing Education in Practice*, 14, 183-187, 2014.
- 40) Byrne L., Happell B., Welch A. : Reflecting on Holistic Nursin: The contribution of an academic with lived experience of mental health service use, *Issues in Mental Health Nursing*, 34, 265-272, 2013.
- 41) Byrne L., Happell B., Welch T. et al. : 'Things you can't learn from books': Teaching recovery from a lived experience perspective, *International Journal of Mental Health Nursing*, 22 (3), 195-204, 2013.
- 42) Rush B. : Mental health service user involvement in nurse education: A catalyst for transformative learning, *Journal of Mental Health*, 17 (5), 2008.
- 43) Simpson A., Reynolds L., Light I. et al. ; Talking with the experts: Evaluation of an online discussion forum involving mental health service users in the education of mental health nursing students, *Nurse Education Today*, 28, 633-640, 2008.
- 44) Happell B., Pinikahana J., Roper C.: Changing attitudes: The role of a consumer academic in the education of postgraduate psychiatric nursing students, *Archives of Psychiatric Nursing*, 17 (2), 67-76, 2003.
- 45) 文部科学省：看護師・准看護師養成施設・入学定員年次別推移一覧. https://www.mext.go.jp/content/20220701-mxt-igaku-100001205_22.pdf (access, 2023.2.15)
- 46) Bedregal LE, O'Connell M, Davidson L.: The Recovery Knowledge Inventory: assessment of mental health staf knowledge and attitudes about recovery. *Psychiatric Rehabilitation Journal*, 30, 96-103, 2006.
- 47) Chiba R., Umeda M., Goto K. et al. : The property of the Japanese version of the Recovery Knowledge Inventory (RKI) among mental health service providers: a cross sectional study. *International Journal of Mental Health Systems*, 11, 71, 2017.
- 48) 鈴木啓子, 平上久美子, 伊礼優: 精神障害への抵抗感の強い学生にとっての精神看護実習の経験, *名桜大学紀要*, 18, 57-76, 2013.